

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

にしみたか学園三鷹市立第二中学校

<p>関係法規・市教委教育目標</p> <p>日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、都教育目標、三鷹市教育目標「豊かな心をもち、心身共に健康で、たくましく生きる児童・生徒の育成」</p>	<p>学園教育目標</p> <p>地域に根ざし、自らの生き方を主体的に切り拓き、創造性にあふれ、国際性豊かな児童・生徒の育成を目指す。</p> <p>学校教育目標</p> <p>時代を担う人間の育成をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○真 真の知恵 ○善 善い行い ○美 美しい心 	<p>生徒の実態・期待される生徒像</p> <p>あいさつを大切に、明るく、元気で、素直であるが、自分から行動していく主体性に欠ける部分がある。失敗を恐れず、自ら考え挑戦する態度を養う。</p> <p>学園の目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく生徒 ○失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく生徒
--	---	--

学力向上にかかわる学校経営方針

- ① 基礎学力の向上(補習・勉強会・地域未来塾・学生ボランティアの活用)
- ② 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善による思考力の育成
- ③ 評価・評定の精度向上
- ④ 学びの個別最適化(タブレットの活用)

教科指導の重点

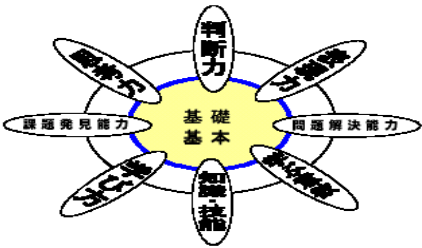
- ①能力に応じた目標を設定させ、わかる授業を展開し、達成感を得ることによって学習意欲を喚起する。
- ②補充指導の充実を図ることによって、基礎・基本を確実に身に付けさせる。
- ③キャリア教育との関連を図り、学ぶ意義を理解し、主体的に学ぶ意欲をもたせる。

本校が目指す「確かな学力」

小・中一貫教育を通して、基礎・基本を重視した「確かな学力」を育成する。
主に問題解決型学習を通して「確かな学力」に関わる様々な力を育成していく。
認め合い、学び合う態度を育成する。

【生きる力】

確かな学力 豊かな人間性 健康と体力



道徳教育の指導の重点

- ①基礎的行動様式を身に付けさせ、道徳性を育てる。
- ②自他を認め、尊重する態度を育成する。
- ③人間・生命の尊重を基礎として、思いやり、克己心、責任感等の道徳的実践力を育てる。
- ④世界の中の日本人としての自覚をもち、世界平和や人類の発展に貢献する意欲を高める。
- ⑤感動体験や地域での活動を通して豊かな心・寛容の精神を育てる。

総合的な学習の時間に身に付ける「学力」の重点

- ①自ら課題を見付け、主体的に判断し、よりよく問題解決をする資質や能力を育てる。
- ②問題解決や探究活動に主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を育てる。

特別活動の指導の重点

- ①目標をもたせ、自らの責任を自覚させ、最後までやり抜く態度を培う。
- ②集団の一員として、思いやりの心・寛容の精神を養う。
- ③行事への積極的な参加を通じ、豊かな人間性を育てる。
- ④体験的な学習の充実を図る。
- ⑤小中で連携して「あいさつ運動」を実施し、温かな人間関係を築かせる。
- ⑥生徒会活動を充実させる。

進路指導の重点

- ①生涯学習の視点で自己理解を深め、個性を伸ばし、自己実現を図る能力を育成する。
- ②社会の一員としての自覚を培い、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。
- ③進路相談を充実させ、個に応じた進路選択ができるように指導する。
- ④キャリア教育を基盤とした小・中9年間の「生き方・進路指導」カリキュラムにそって、系統的な進路指導を実施する。
- ⑤キャリアパスポートを活用する。

生活指導の重点

- ①いじめを許さず、互いに尊重し合う思いやりのある生徒の育成を目指す。
- ②生徒理解を深め、特別支援教育・教育相談の充実を図る。
- ③生徒についての情報交換を密に行い、全教育活動を通して、生徒の実態を把握し、個々の能力・適性の伸長を図る。
- ④家庭・地域社会との連携を密にし、安全教育の充実や問題行動の早期発見・指導に努め、生徒の健全育成を図る。
- ⑤すべての生徒をすべての教員で指導する組織・体制づくりに努める。
- ⑥挨拶運動や地域清掃を実施する。
- ⑦生命尊重のためのプログラムを実施する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導、習熟度別学習等による個に応じた指導の徹底 ○基本的な内容の定着・反復学習による復習の徹底 ○ICTを活用したハイブリッド学習の実施 ○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、わかる授業の展開 ○各種調査結果を踏まえた指導改善推進プランの作成と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを生かした教育課程の編成 ○行事の精選と授業時数の確保 ○少人数授業の展開 ○夏季休業期間中におけるサマースクールの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同研修会の実施(生き方・キャリア教育の視点から) ○講師を招聘した研究授業による授業改善の推進 ○にしみたか学園アクションプランの策定 ○キャリアパスポートの活用 ○自主的小規模研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価基準・規準の生徒・保護者への明示 ○指導と評価の一体化 ○個人内評価の工夫 ○小学校の評価方法との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の諸活動やボランティアへの参加・奨励 ○地域の人材・事業所との連携による体験学習の充実 ○保護者・地域人材を活用した教育活動の充実(英検、漢検、地域未来塾、など) ○にしみたか学園アクションプラン(地域・保護者版)の策定と実践
<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいの明確化と振り返りの時間確保 ○課題解決型の授業展開 ○授業規律の確立(ノート指導など) ○主体的に学習に取り組む態度を育成するための言語活動の工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ○探究カンファレンスへの参加 ○デジタル・シティズンシップに関する熟識への参加 		<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携による基本的な生活習慣の確立・健康教育の推進 ○家庭学習の定着

※下線部は今年度の追加項目

三鷹市立第二中学校 令和4年度【国語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○学習に対する意欲的な取り組みも見られるようになった。今後は語彙力の向上へとつなげたい。</p> <p>○タブレットなどICT機器を効果的に利用し、授業に取り組むことができる生徒が増えている。今後は記述問題などで、ノートやテキストなどに書く問題も多く取り組んでいきたい。</p>	<p>○詩の発表などで聞き手を意識した話し方を工夫することができる。</p> <p>○文節、連文節などの文の成分について理解しきれていない。</p> <p>○発達段階に応じた十分な語彙力が身につけていない。</p> <p>○説明的文章において接続語や指示語などを意識し、文章の内容をまとめることが苦手である。</p> <p>○必要な情報を適切に引用して、自分の考えを書くことが苦手である。</p> <p>○感想文などを時間をかけて書くことができるが、端的に要約したものを書くことが苦手である。</p>	<p>◎文の成分など文法に関しては、家庭学習での課題を提示し、一年を通して反復練習を行う。</p> <p>◎漢字テストを継続的に行い、漢字を学習する習慣を身につけさせる。また、授業の中で辞書を多用し、生徒自身が語彙を増やす機会を多く作る。</p> <p>◎文どうしの関係性に着目しながら、文の要旨がどこになるのか意識させるような指導をしていく。</p> <p>◎日頃の授業から教科書やノートに文章を読むごとにメモを取らせる。その際に文の構造を考えた読解になるように指導していく。</p> <p>◎記述問題を取り組む時間設定を明確に行いながら、生徒自身が言葉を考え、場面に応じて使いこなせるように指導していく。</p> <p>◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第2学年	<p>○ペアや小グループでの発表練習を多く取り入れたことで、自主的に考えを伝え合える環境を作ることができるようになった。</p> <p>○定期的に文章を書く活動を取り入れたことで、原稿記述の基本的な書き方が定着し、文章の構成を工夫して表現する力を身に付けさせることができるようになった。</p> <p>○事実と意見を区別することはできるようになってきた。今後はそれらを効果的に組み合わせることで文章を構成できるように指導していく。</p>	<p>○答えが明確な問いについて考えることは得意だが、自分で課題を見つけ、答えを探し出す作業は苦手である。</p> <p>○読むことにおいて、文章全体の中で各部分が果たす役割を考えることが苦手である。</p> <p>○読むことにおいて語句の意味を理解していないままに、読み解こうとしていることがある。</p> <p>○書くことにおいて、説得力のある文章構成を考え、論理的に自分の考えを述べることでできる生徒が少ない。</p>	<p>◎各自で課題を設定し、読み深める活動を取り入れる。</p> <p>◎文章読解において、各部分で読み取った内容が、文章の主題や筆者の主張とどのように関わっているかを考えさせる。</p> <p>◎構成の型をいくつか示したり、文章読解で得た知識を活用したりしながら、相手や目的に応じて効果的な構成を選択できるようにする。</p> <p>◎ICT機器を活用し、情報を取捨選択したり、多様な方法で課題に取り組んだり、考えを交流したりできるようにする。</p> <p>◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第3学年	<p>○自ら課題を設定し、読み深めていく学習活動を行うことで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができた。</p> <p>○タブレット端末などを活用した交流活動を行うことで、互いの良さを見つけ、自分の学びに生かすことができるようになった。</p> <p>○文章の構成力が十分に身につけておらず、課題に従って作文を書くことに困難を感じる生徒が多い。</p>	<p>○発表の工夫を考え、聞き手の興味を引くことができる。</p> <p>○行書の特徴についての理解が不十分である。</p> <p>○発達段階に応じた十分な語彙力が身に付いていない。</p> <p>○説明的文章の読解において、段落同士の関係を捉え、文章全体の中での役割を考えることが苦手である。</p> <p>○必要な情報を適切に引用して、自分の考えを書くことが苦手である。</p>	<p>◎書写の学習において、身の回りの文字について調べてその良さを見つける活動を行う。</p> <p>◎語句の意味調べと短文づくりを継続するとともに、新聞記事を読んで考えを交流する活動を取り入れる。</p> <p>◎文章の構成を図示するなどして他者に説明する学習を取り入れ、説明的文章の読解力を高めさせる。</p> <p>◎説明的文章の読解後に、筆者の主張をまとめ直して引用し、自分の考えを書く活動を取り入れる。</p> <p>◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>

三鷹市立第二中学校 令和4年度【 社会 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○基礎学力の向上のため、毎回の授業で小テストを実施したことで、「前時の復習」を効率よく行うことができた。</p> <p>○まとめ学習を定期的実施したことで、習得した知識の活用機会を増やすことができた。</p>	<p>【地歴共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象への興味・関心を醸成するための取り組み。 ○家庭学習のより一層の充実。 ○既習事項を関連付けるための指導の工夫。 <p>【地理的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表やグラフなどから必要な情報を読み取るための視点の提示。 ○地名や国名などの空間的な把握。 <p>【歴史的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の特徴を踏まえた、時代区分や因果関係の理解。 ○時代背景を理解するための資料活用の技能の向上。 	<p>【地歴共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ノートやワークシートの活用方法を工夫させることで、自分の理解度や習熟度に合わせて学習方法を調整する力を身に付けられるようにする。 ◎家庭学習を行う習慣を身に付けさせるために、宿題や小テスト等を活用する。 ◎「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し、小学校での既習事項と関連付けるなどの系統的な指導を行うことができるように工夫する。 <p>【地理的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎表やグラフなどから必要な情報を正しく読み取ることができるように、ICT機器の活用や視点の提示を行う。 ◎授業で取り扱った地名や国名などの位置関係を把握できるようにするために、地図帳の活用や書き込みを積極的に行う。 ◎習得した知識を活用・表現できるようにするために、協同的な学習や単元のまとめなどを定期的実施する。 <p>【歴史的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎多面的・多角的に考える習慣をつけられるようにするために、既習内容や地理的分野と関連付けながら指導を行う。 ◎資料の読み取りの視点を増やすために、個人作業だけでなく話し合い活動を取り入れるなど、授業展開を柔軟に検討する。
第2学年	<p>○地理的な見方や地理的技能を身に付けることができるよう生徒相互に確認、説明ができるように指導することができた。</p> <p>○生徒の活動時間を確保し、話し合いができない状況では聞くことも取り入れていくことができた。</p>	<p>【地理的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図やグラフ・表などから考察を深め、適切にまとめる。 ○地域的特色から地域の課題を考え、理解する。 <p>【歴史的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の特色を関連付けをして比較などを行うことで、多面的・多角的に考察する。 ○諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能。 	<p>【地歴共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ノートを自分で工夫して作成することで、復習をする習慣を身に付ける。 ◎家庭学習を行う習慣を身に付けさせるために、毎回の授業で小テストを実施する。 ◎「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し、小学校での既習事項と関連付けるなどの系統的な指導を行うことができるように工夫する。 <p>【地理的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎表やグラフなどから必要な情報を正しく読み取ることができるように、ICT機器の活用や視点の提示を行う。 ◎地図帳を有効活用し、位置などを正確に把握し、関連付けて学ぶことができるようにする。 <p>【歴史的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎既習内容や地理的分野と関連付けて考えることで、多面的・多角的に考察できるようにする。 ◎資料を適切に提示し、プリントなどを用い自ら考えまとめられるようにする。
第3学年	<p>○ICTを活用し、学習における理解を深めることができた。</p> <p>○基礎・基本の定着を図り、知識・理解の活用向上させることができた。</p>	<p>【公民的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識の習得は比較的高いが、関連付けて考えることが課題である。 ○情報を収集する力はあるが、読み取る力、まとめる技能に課題がある。 <p>【歴史的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時代区分やその移り変わりを意識している。 ○学習が近代になり、日本と世界的の歴史的なつながりを意識して理解することが課題である。 	<p>【公民的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公民的事象を学ぶための、補助的な説明をビジュアル的に捕捉しながら行う。 ◎話し合いを通じて公民的な問題を考える力を伸ばし、実生活に即した具体的な課題解決の方法を相互に模索するような指導を行う。 <p>【歴史的分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎時代区分を基に社会的な関連性を主体的にまとめさせ、全体でフィードバックしていく。生徒の活動時間を確保し、話し合いができない状況では聞くことも取り入れていく。 ◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用する。

三鷹市立第二中学校 令和4年度【数学】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別授業を通して、個に応じた指導を実施し、基礎学力の定着を図った。 ○章の節目に章テストを適宜行った。また、定期考査後には解き直しをさせて、学力の定着を図った。 ○必要に応じて個別指導を丁寧に行い、生徒のクラス変更を適宜行い、各コースを担当する教員も章ごとに変更した。 ○家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な計算はできているが、正負の数や文字式においてケアレスミスが目立つ。 ○ワークや解き直しプリントへの取り組みが、期限間近になってから急いでやる様子が見られ、途中式を含めた解答までのプロセスが大切にされていない。 ○そのため間違えた理由が浅く、次は注意するにとどまっている生徒が多い。 ○家庭学習を習慣化するようにプリントやワークで指示を行い、その際も知識・技能が定着するように途中式を省かないよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎クラスにおいては、小学校の復習並びに中学校の基本的な内容を定着を目指す。プリントなどを使用し、反復学習を行っていく。 ○定着・発展クラスにおいては、発展的な内容まで授業で扱い、数学的な思考力を養っていく。必要に応じて個別指導を丁寧に行い、クラス変更を適宜行う。 ○授業最後の5分間を振り返りの時間とし、生徒に1時間で学んだことを整理させる。その際、定義などの重要なルールは教師を中心として振り返る。 ○学びあいを目的とした課題解決学習として、毎授業での発問を工夫し、論理的に筋道を立てて説明させるように工夫する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用する。 ○家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導する。また、テスト実施後に解き直しを課題として提示する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別授業を通して、個に応じた指導を実施し、基礎学力の定着を図った。 ○単元の節目に単元末テストを適宜行った。また、テスト後には解き直しをさせて、学力の定着を図った。 ○家庭学習の習慣が身につくようにこまめにテストを行った。また、その日のうちにワークで演習をするように指導した。 ○発展的な指導としては、コースに応じて発問し、数学への意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な計算はしっかりとできており、知識・技能は身につけている。しかし、思考力を問う問題では苦手になっている生徒も多い。 ○家庭学習の習慣が身についた生徒が多くみられた。その一方で学習方法に悩む生徒もみられた。 ○単元の節目に単元末テストを適宜行っていたが、今年度はこまめにテストを行うことが時間的に難しく、別の手段が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎クラスにおいては、基本的な内容を定着するまで繰り返し学習する。そのため発展的な課題は詳細な解説プリントの配布で対応する。 ○定着発展クラスにおいては、発展的な内容まで授業で扱う。そのため必要に応じて個別指導を丁寧に行う。またクラス変更を適宜行う。 ○定期考査前には質問教室を開き、個別指導に当たる。 ○学びあいを目的とした課題解決学習として、毎授業での発問を工夫し、論理的に筋道を立てて説明させるように工夫する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用する。 ○家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導する。また、テスト実施後に解き直しをさせていく。解き直しには同じ問題だけではなく、類似した問題も用いることで、深く考えさせていく。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎クラスでは、基本問題の定着を目標に、繰り返し練習を中心に授業を行った。 ○発展クラスでは、教科書レベル以上の内容に挑戦する機会をなるべく作った。 ○提出物やテストの振り返りの指導を行い出来るようになるまで挑戦する態度を身に着けさせた。 ○家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導した。 ○タブレットを活用し、詳細な解説やドリル学習の習慣を身に着けさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や計算力は身につけているが、思考・判断を問う問題の正答率が非常に低い。 ○テストや単元の振り返りをみると、具体的な学習方針が分からずに、すべてを自分のケアレスミスとしてとらえ、以後気を付けるという解決方法を述べるにとどまっている生徒が多い。 ○ワークなど課題への取り組みが提出期限間際に一気に済ませる生徒が多く、思考力を問う問題への取り組みが浅くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数授業の特徴を最大限に生かせるよう、クラスごとに教材を精選し、指導にあたる。とくに基礎クラスでは、徹底した繰り返し練習を行い、発展クラスでは発展的な内容の課題を数多く扱う。 ○自力学習が難しい生徒への、個別指導の機会を増やす。 ○テスト返却後の解き直しレポートの完成度をあげ、できるようになるまで挑戦する態度を育てる。また、振り返りがより具体的になるよう、評価方法を工夫する。 ○計画的にワークなどの課題をすすめる、応用的な内容に余裕をもって取り組むよう指導する。 ○継続して授業で取り扱った内容の演習問題ができるようにプリント課題を配布する。また、授業内容のワークも順次進めるように指導していく。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用する。

三鷹市立第二中学校 令和4年度 理科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○生徒の主体的・対話的な学びを促す授業展開を工夫することができた。授業の中で生徒同士で対話して深めたり、見方・考え方をはたらかせて取り組む姿が見られた。</p> <p>○実験・観察を生徒が主体的に取り組めるよう、生徒が疑問を見出したり課題を設定したりする活動を重点的に行った。</p>	<p>○授業に対して自ら主体的に取り組める生徒が多い。また、授業を通して自分なりの学び方を身に着けたり、学びを自己調整したり、粘り強く取り組んだりする力が成長し、それを実感している生徒も多い。</p> <p>○学びを通して新たな疑問を見出し、積極的に探究しようとする姿が見られた。</p> <p>○実験・観察に限らず、他者と協力したり教えあったりするなど、協働的に学ぶ姿が見られた。</p> <p>○実験・観察のレポートや振り返りシートなどの提出物が提出できない生徒も存在する。</p>	<p>◎主体的に学習に取り組む態度の育成に向けて、授業において生徒が粘り強く取り組む場面や自分の学びを調整する場面を設定する。</p> <p>○毎時間の授業で振り返りの時間を設け、その授業での学びを再構築して記述させたり、自分の学びに向かう姿勢を振り返り次時の授業につなげるよう促したりする。また、教師が生徒の学びをモニタリングして、適宜アドバイスや励ましを行う。</p> <p>○UDLの視点から授業改善を行い、多様な生徒が自分に最適な学び方を発見し実践していけるよう、個別最適な学びを実現していく。</p> <p>○毎回の授業において、特に理解が遅れがちな生徒には教師が手厚くサポートしたり、友達同士で教え合ったりする時間を設ける。</p>
第2学年	<p>○実験・観察を十分に取り入れることで、一人ひとりの実験・観察に対する技術の向上を図り、思考・判断・表現力の育成を図る機会を多くもつことができた。</p> <p>○実験において調べた結果から考えられることをまとめる機会をつくることができた。昨年と比較して考える力がついてきた。しかし、考えを表現する力が不足しているので引き続き取り組みたい。</p>	<p>○実験や班での話し合い活動に積極的に取り組める生徒が多い。また、生徒の発言の内容から課題に対して良く考えていることがわかる。</p> <p>○実験プリントを使って課題に対する考察をさせると、昨年に比べて根拠をもって考えを述べられる生徒が増えた。しかし、考えたことは良い内容でも上手く表現できていないことがよくある。</p> <p>○範囲を決めて提出させたワークを点検すると、全問正解だったり、ほぼ間違えずに解答している生徒が昨年に引き続き多い。しかし、定期テストに出題されると解けていないケースがよく見られるので、学習方法に課題のある生徒が多い。</p> <p>○1年生での既習内容を2年生の内容と関連させて質問すると、トピックスは覚えていても詳しい内容を忘れてしまっている場合が多い。</p>	<p>◎科学的な思考力を育てるため、実験プリントには必ず「考察」の欄を設ける。また、実験ごとにプリントを点検し、次につながる助言等をしたり、再提出の機会を設けたりする。</p> <p>○毎時間の授業で友達同士で考えを話し合える時間を設け、自分の考えを表現する機会をつくる。</p> <p>○ワークを使って自分で復習する習慣をつける。学期に複数回ワークの点検を行い、その際自主学習のノートと一緒に提出させることで意識づけていく。</p> <p>◎毎時間の授業で知識が定着するように、大事だと思ったことは自らノートにまとめられるよう指導する。定期テストで授業で取り上げたトピックスを出題することで、成果を実感しやすくする。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第3学年	<p>○導入で身近な現象を取り扱うことにより、日常生活にリンクさせながら授業を展開しているが、式など定量的な話題になるとつまずきが多く、課題がある。</p> <p>○予想を立てる活動に力を入れることにより、思考力の向上を目指している。</p>	<p>○実験や観察を積極的に行う傾向にある。課題は「楽しい」で終わってしまわないように身の周りのことと関連させながら興味を持たせていくことが課題である。</p> <p>○定性的な理解は得意な傾向だが、定量的な話題に努力を要する。簡単な問題を例題に取り上げ、スモールステップで学習を進めていくことを心掛ける。</p> <p>○演習で習熟度を理解することができた。今後はその習熟度に合わせ授業の展開を考えていくことが課題である。また、生徒間で教えあう時間を設けることで学習が進んでいる生徒にも役割を与えていく。</p>	<p>○身のまわりの現象等を学習内容に結びつけるような話題を取り上げる。</p> <p>◎話し合い・伝え合い活動を通して、発表する力や自分の考えをまとめる力、思考力等を育む。</p> <p>○予想→実験・観察→結果のまとめ→考察の流れを大切に、一人ひとりの実験・観察に対する技術の向上を図り、科学的な思考力の育成を図る。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>

三鷹市立第二中学校 令和4年度【音楽】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 依然として読譜力に課題のある生徒は多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本となる音楽を形作っている要素の認識や捉え方が不十分なままの生徒が多い。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を持ち、話し合い活動や発表の場でも意欲的に発言する姿勢が見られる。 活動の内容によらず、自分たちで工夫して活動している様子が見られる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 読譜力の低い生徒が多く、歌唱や創作分野に苦手を感じており、定期考査の得点にも影響している。 音楽を形づくっている要素の知覚について個人差があり、鑑賞の際に自分の考えを書き表すことを難しく感じてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りを自由記述させる活動を継続していたが、音楽力よりも国語力を重視するようなものになりやすい。実際の授業内容に即したごく小さいテストを実施し定着を図る。 楽典よりももっと実際に即した初歩的な読譜指導を行う。 形作っている要素を提示し、鑑賞、表現領域問わず日頃から意識できるよう促す。 ◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用して系統的な指導を行う。
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標やねらいを明確にした指導により、学習の流れを意識しながら要点を掴んだ学習ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 得た知識を生かし、表現活動における主体的な取り組みの指導や助言をすることに個人差がある。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に教師や友達の話をよく聞き授業に集中して取り組む姿勢が見られる。 自主的に学習できる生徒と、他者の力を借りながら学習を進める生徒の差が大きく見られる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽的な能力や技能面などを考慮して、適切にグループ分けをすることともに、効果的なタイミングでペアやグループ学習を取り入れていくこと。 自分の考えや学びを他の領域と結び付けて理解し、表現に生かそうとする主体的な姿勢を持たせるような指導をしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 読譜力を高めるための楽典的な内容の指導の継続。 歌唱、鑑賞、器楽、創作の内容を相互に関わらせた指導の継続。 ◎三鷹市小・中一貫カリキュラムをさらに活用する。 ◎音楽を形作っている要素を意識できるよう、あらゆる学習活動でも取り上げるようにする。 ◎グループでの話し合いやペアでの活動を通して、他者の意見に触れる機会を増やすとともに、さらに学びを深めて次に生かすように授業展開を工夫する。 ◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用して系統的な指導を行う。
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽譜から読み取ったことを基に自ら表現の工夫について考え、音楽表現ができるようになった。 2つの物を比較して聴くことを通して、その音楽のよさについて考えることができるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学習した内容を、生活の中の音楽と結び付けて考えること。 活動への慣れから怠惰になってしまう生徒が少々みられる。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見に自信を持ち、話し合い活動や発表の場でも意欲的に発言する姿勢が見られる。 自分たちで工夫して練習に臨む姿勢がみられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽譜から読み取れることについては、個人差が大きい。 音楽を形づくっている要素の知覚について個人差があり、鑑賞の際に自分の考えを書き表すことを難しく感じてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎三鷹市小・中一貫カリキュラムをさらに活用する。 ◎どの領域でも楽譜を取り入れた学習を進める。 ◎曲の背景や作曲者の思いから、曲について深く考えたり、よさを味わえる活動を取り入れる。 ◎グループでの話し合いやペアでの活動を効果的な場面に取り入れ、新鮮な気持ちで毎時間の活動に迎えるようにする。 ◎板書だけでなく自らの気付きなどをメモする欄をつくるなどワークシートを工夫して構成し、学習の要点を自分で考えながら学習に取り組めるようにする。 ◎三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用して系統的な指導を行う。

三鷹市立第二中学校 令和4年度 美術科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>〈成果〉 ○鑑賞の時間を積極的に取り入れたり、発想・構想の段階で意見交換をするなどして、生徒の造形的な見方、感じ方を深めることができた。 ○視覚に訴える資料を増やすことで、生徒が制作の見通しをもつことができた。 ○指導と評価の一体化を図ることができた。</p>	<p>〈現状〉 ○表現活動と鑑賞活動をバランスよく取り入れた授業を行っている。 ○タブレットを用いた調べ学習を行うようになった。 ○表現活動の題材は、平面のほうが多い傾向にある。 〈課題〉 ○鑑賞活動のさらなる充実。 ○タブレットを活用した学習活動のさらなる改善。 ○題材と教材の見直し。 ○学習事項の関連付けや一般化。</p>	<p>◎題材の導入時や、作品完成後に鑑賞の時間を積極的に取り入れる。形や色彩などから、作者の意図や作品の良さを感じ取り、自分考えを豊かに表現する力を身に付けさせる。 ◎調べ学習において、スライドを活用した作品の紹介や発表を取り入れる。 ○竹や籐を用いた、比較的自由に形を作れる表現活動を取り入れる。 ○学習活動の中で既習事項を意識的に取り込む。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第2学年	<p>〈成果〉 ○発想・構想の段階で相互鑑賞するなどして、生徒の造形的な見方、考え方を深めることができた。 ○1時間ごとのねらいを板書し生徒に示すことで、生徒が何を取り組めばよいかかわかるような授業を展開することができた。</p>	<p>〈現状〉 ○表現活動と鑑賞活動をバランスよく取り入れた授業を行っている。 ○タブレットを用いた調べ学習を行うようになった。 〈課題〉 ○鑑賞活動のさらなる充実。 ○参考にする作品や素材の選び方を学ぶ。 ○美術館等のサイトの紹介。</p>	<p>◎題材の導入時や、作品完成後に鑑賞の時間を積極的に取り入れる。形や色彩などから、作者の意図や作品の良さを感じ取り、自分考えを豊かに表現する力を身に付けさせる。 ◎タブレットを見ながら参考作品を写すのではなく、生徒のイメージを言語化しながら、より確かなものとしていく活動を重視する。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第3学年	<p>〈成果〉 ○鑑賞の時間を積極的に取り入れたり、発想・構想の段階で意見交換をするなどして、生徒の造形的な見方、感じ方を深めることができた。 ○視覚に訴える資料を増やすことで、生徒が制作の見通しをもつことができた。</p>	<p>〈現状〉 ○表現活動と鑑賞活動をバランスよく取り入れた授業を行っている。 ○タブレットを用いた調べ学習を行うようになった。 〈課題〉 ○鑑賞活動のさらなる充実。 ○学習内容と既習事項の関連付けや一般化。 ○自ら進んで学びに向かう姿勢。</p>	<p>◎題材の導入時や作品完成後に鑑賞の時間を取り入れる。形や色彩などから、作者の意図や作品の良さを感じ取り、自分考えを豊かに表現する力を身に付けさせる。 ◎調べ学習において、既習事項を積極的に取り入れて調べさせたり、自分の考えを書かせたりする。 ○表現、鑑賞活動を通して、美術の魅力を伝えていくとともに、自ら進んで調べ、発信する活動を増やしていく。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>

三鷹市立第二中学校 令和4年度【保健体育】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に運動に取り組み、運動ができる楽しさを実感できている。 ○教え合い、学び合いながら運動に積極的にとりくめている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体力テストの結果として握力・持久力が低下している。 ○学習カードの振り返りで生徒自身が課題を発見し、課題解決を行うための道筋を計画性を持って取り組めていない。 	<p>①主体的・積極的に授業に取り組んでいる生徒が多い。</p> <p>②毎時間ウォーミングアップの時間に行う体力づくりにより、基礎体力の向上を図る。</p> <p>③技能向上のみならず、生徒が主体的に学びたいくなるような、課題目標に向けてのスマールステップを資料提示や学習カードの作成することが課題である。</p> <p>④学習カード・技能ポイント資料を活用し、生徒自身が課題を見つけて、取り組む姿勢が見えているものの、より深めていく学習活動は不十分である。生徒の活動を適正な評価につなげるためにも、生徒一人一人が主体的かつ自主的な表現ができるような指導を行うことが課題となる。</p>	<p>◎①習熟度に応じたグループ学習を行ったり、生徒自身が高めたい技能を選択して取り組めるような環境をつくっていく。自主練習時間を確保し、教え合いや学び合いの時間を設定して基礎的・基本的技能の向上から応用・発展的な学習になるように単元計画を作成していく。学び合いのポイントを授業の最初に提示・説明をしていく。</p> <p>②技能やルールなど、イメージがし易いように模範を示したり、提示物や学習カードを工夫したりするなど視覚教材の工夫を行い、より理解を深められるようにしていく。</p> <p>③授業への取り組み方や授業内の対話を通じて、生徒一人ひとりの課題を理解しアドバイスを行っていくと同時に、運動に対する思考力の評価を行うために、規準を示すようにしていく。</p> <p>④体力テストの握力や全身持久力が高まるように、生徒が個々に行える運動を取り入れたり、家庭学習に取り組めるような動画、運動を紹介していく。</p> <p>④三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、主体的で対話的で深い学びができるよう、小中の系統性を意識した指導を行う。</p>
第2学年	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が楽しく身体を動かし、授業に主体的に参加することができている。 ○自己の課題を考え、課題解決のためにどのような工夫ができるか考えることができる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教え合いなど他者とのコミュニケーションが少ないことが課題である。 ○体力テストの結果として女子は持久走、男子は上体起こしが東京都の平均より下回っている。 	<p>①主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p>②学習カードや技能プリントなどの資料を活用し、自己の課題や課題解決方法を見つけ、取り組もうとする姿勢がみられる。</p> <p>③生徒が「分かった・できた」と感じるような練習環境の提供が課題である。また、その際、タブレット等活用しながら自分の動きを可視化したり、仲間にアドバイスしたりする時間の確保も必要である。</p> <p>④毎時間、ランニングや筋力トレーニングを取り入れ体力向上を図る必要がある。</p>	<p>①様々な学習の場を設け、生徒が自分の能力に応じて練習できるような学習環境の工夫を行っていく。</p> <p>◎②生徒が自ら課題を見つけ、解決に向けて取り組めるよう学習カードやプリントの工夫を行う。その際、ワークシートに生徒自身の気づきを記入できる欄を設け、毎回の振り返りが行えるようにする。</p> <p>③体力テストの結果で低かった項目については、毎時間の授業でトレーニングを取り入れていく。また、家庭でのトレーニング方法についても提示し、生徒がいつでも取り組めるようにしていく。</p> <p>④評価基準を提示し、生徒が自分の能力を理解し、より高い目標を目指そうと努力する姿を育てる。また、成果を生徒の自信につなげられるよう、評価をできるだけ早くフィードバックし、努力が結果に結びつくという課程を確かめさせ、意欲を高められるようにする。</p> <p>◎④三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、主体的で対話的で深い学びができるよう、小中の系統性を意識した指導を行う。</p>
第3学年	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技ができるようになるために、練習に意欲的に取り組んでいる。 ○毎回の授業で補強運動を行うことで、体力の向上をはかることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教え合いなど他者とのコミュニケーションが少ないことが課題である。 ○自己や他者の課題を理解し、課題解決に向けて考える力が不十分である。 	<p>(学習状況の現状と課題)</p> <p>①毎時間の授業でランニングや筋力トレーニングなどを行っているため、体力、筋力は向上している。</p> <p>②生徒が興味関心をもち、意欲的に取り組むような学びの環境を設ける必要がある。また、課題解決や技能向上のために、段階に応じた練習環境の提供が必要である。</p> <p>③学習カードを活用し、毎時間の課題を見つけ、次回の取り組み方を考えてはいるものの、不十分である。生徒がつまづいている点や、課題解決の方法を具体的に表現できるような指導をしていくことが課題である。</p> <p>④生涯にわたりスポーツに親しむことができるよう、多くの種目に触れあい、選択肢を増やして楽しめるようにしていくことが課題である。</p>	<p>◎①技能レベルに応じた指導を行うことや、生徒自身が技能に応じて取り組みを選択できるような環境を作っていく。教え合いや学び愛の時間を設定して基礎的・基本的技能の向上から応用・発展的な学習になるように単元計画を作成していく。</p> <p>②技能やルールなど、イメージがし易いように模範を示したり、提示物や学習カードを工夫したりするなど視覚教材の工夫をし、より理解を深められるようにしていく。また、タブレットに動画から資料を見て、各自のレベルに合わせて練習方法が選択できるようにする。</p> <p>③授業への取り組み方や授業内の会話を通して、課題を理解しアドバイスしていくと同時に、運動に対する思考力の評価をしていくために、規準を示せるようにしていく。</p> <p>◎④三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、主体的で対話的で深い学びができるよう、小中の系統性を意識した指導を行う。今年度は空手道を単元として取り入れ、新たな種目に挑戦させ、生徒の可能性を探る。</p>

三鷹市立第 中学校 令和4年度【技術・家庭】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>〈技術〉 ○生徒の目の前で実技を見せるなどして、興味関心を引き出して活発に行動できるように促すことができた。</p> <p>〈家庭〉 ○生徒が学習内容に関心を持つように導入の発問を工夫することができた。</p>	<p>〈技術〉 ○現状・課題 積極的に授業中に発言する生徒が多い。とても意欲的に受け付けているが、何事も深く考えずに作業を進める姿が多々見られる。</p> <p>〈家庭〉 ○現状・課題 積極的に意見を発表する生徒が多く、意欲的に授業を受けている生徒が多い。しかし、自由な発言をしてしまう場面も多々見られるため、発表規律を整える必要がある。</p>	<p>〈技術〉 ○自信をもって発言できる環境ではなく、周りの意見も考えて発言できるように、生徒の1つ1つの発言について考えさせるような問いかけを行う。 ○すぐに思いついたことを発言するのではなく、自分の中で考え直す時間を設ける。また、相手の考えを受容できるように、グループワークの時間をしっかり確保して、まとめる時間を確保する。</p> <p>〈家庭〉 ○発言に対する意欲を認めつつ、発表の手順についてこまめに確認をする。 ○自分の意見をペアやグループで発表する機会を多く設定することで、お互いの考えを共有し認め合う。</p> <p>〈共通〉 ○小中一貫カリキュラムの「地域との連携の輪」を活用して、生徒の豊かな人間性と社会性を育む。</p>
第2学年	<p>〈技術〉 ○昨年に続いて、グループワークの時間を多めに確保して、全体で取り組んでいる意識を持たせるようにしていた。</p> <p>〈家庭〉 ○特に実技の時間を多めに取ることができた。また、昨年度に引き続き感染症対策を徹底したうえで、基本的な知識・技能を習得することができた。</p>	<p>〈技術〉 ○現状 静かに集中して授業に参加する環境が整っている。グループワークでは、しっかり切り替えて発言し意見交換もできている。</p> <p>○課題 1人で考える時に、意見があまり出ないことが多い。自分の意見をしっかり持って、事前に準備しておく姿勢が見られない。</p> <p>〈家庭〉 ○現状 基礎的な知識・技能の習得ができている。グループワークでは活発的な意見交換が行われている。</p> <p>○課題 学習した内容を実生活で使用する機会が少ないため、主体的な学習意欲がやや低くなりがちである。</p>	<p>〈技術〉 ○グループワークの前に個人で、意見をまとめる欄を設けるなどして、自分で考えることを促していく。また、グループワークではなく、発表による情報共有を行うようにしていく。 ○自分の考えを持つためには、要点をしっかりと抑えた授業展開が必要になるため、要点整理など授業の中で、1人1人が考えるためのヒントをわかりやすく伝えるようにする。</p> <p>〈家庭〉 ○授業の中で、各内容が実生活においてどのように活かされるを説明し学習に対する必要性を考えさせる。 ○個人の取り組みをペアやグループで共有し、お互いを認め合う機会を持つ。</p> <p>〈共通〉 ○小中一貫カリキュラムの「地域との連携の輪」を活用して、生徒の豊かな人間性と社会性を育む。</p>
第3学年	<p>〈技術〉 ○ICTを活用した情報共有や作業を多く取り入れ、生徒も興味をもって、集中して取り組むことができた。さらに、ICTをうまく活用して効率的に作業が進められるように、事前に確認しておく必要がある。</p> <p>〈家庭〉 ○学習した内容を将来自立した際にどのような場面で活用するのかを具体的にイメージしながら学習に臨むことができた。</p>	<p>〈技術〉 ○現状 座学と実習で、メリハリをもって授業に臨むことができていた。話をしっかり聞き、メモを取る姿勢が身についている。</p> <p>○課題 座学の時に、自分の意見は持っているが、発言が少ない。</p> <p>〈家庭〉 ○現状 将来自立した際の住生活について環境条件や、災害対策等を踏まえながら具体的に考えることができた。</p> <p>○課題 衣服の修繕に必要な手縫いの技能の習得状況に差が見られる。</p>	<p>〈技術〉 ○昨年度と同様に、ICT を有効に使って作業効率を上げ、ネットワークを使って最新の情報など、生徒の興味関心を惹く工夫をする。 ○意見を持っていても、うまくまとめることができない生徒が多いため、考えたり調べたりした内容を発表しやすいようにまとめる時間を設ける。</p> <p>〈家庭〉 ○基礎的な技能の確認に時間をかけ、生徒が自信を持てるようにする。また、ペアやグループでお互いに教え合う場面を設定し理解度を高める。</p> <p>〈共通〉 ○小中一貫カリキュラムの「地域との連携の輪」を活用して、生徒の豊かな人間性と社会性を育む。</p>

三鷹市立第 中学校 令和4年度 【英語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○毎授業のまとめ時に、キーセンテンスとなる英文の日本語を聞き、英文をワークシートへ書くことができた。</p> <p>○家庭学習において、適切な発音やイントネーションで音読ができるよう、授業内で練習できた。</p> <p>○英語が比較的得意な生徒と苦手な生徒でスタディペアを組み学習することで、深い理解を促すような「学び合い」が活発になった。</p>	<p>○単語を発音できていたとしても、スペルを正確に書くことが難しい生徒が多い。</p> <p>○タブレット端末の機能を使用して、教科書の音声再生用のQRコードを読み取り、発音やイントネーションの確認を復習でも活用している。</p> <p>○英作文を書く経験が乏しい。</p> <p>○英会話や英作文の中で、積極的に授業で学んだ表現を使おうとする姿勢がみられる。</p> <p>○ふりかえりシートの活用を通して、できるようになったこと・定着していないことを明確にしている。</p>	<p>○英文の基本的な書き方を定着させ、文章の構成を工夫して表現させる。</p> <p>○タブレットを活用し、多様な方法で課題に取り組んだり、考えを交流したりできるようにする。</p> <p>○正しい発音やイントネーションで音読することが一人でもできるようにするため、授業の中でポイントを教科書に書き込み、十分に練習をする。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第2学年	<p>○英語の学習に意欲的な生徒が多く、会話や英作文の中で積極的に授業で学んだ表現を使うことができた。</p> <p>○ペアワークやグループワークを行い、授業中に助け合いながら課題に取り組み、理解を深めることができた。</p> <p>○文法が定着していない生徒が多いため、文法の復習をワークシートで行う時間を設けた。</p>	<p>○英語を書く経験をさせるため、定期的に課題を与え、英作文を書かせた。文法の定着もかねて、添削されたものを返却後にもう一度書き直すことを行った。</p> <p>○帯活動で1分間ペアでスピーキングを行い、1つの話題に対して少しずつ掘り下げながら会話をつなげられるようにしている。</p> <p>○スピーキングテストでは、暗唱だけでなくその場で判断する即興的な表現も入れながら行っている。</p> <p>○振り返りシートで生徒が自身の学習状況を振り返り、定着できていない部分を把握している。</p>	<p>○英作文を書くだけでなく、添削後の書き直しを大切に、今ならできる表現なども加えながら英語を書かせる。</p> <p>○2学期からより「学び合い」ができるように、英語が得意な生徒と苦手な生徒でスタディペア組んで学習する。</p> <p>○帯活動のスピーキングでは、より会話が続けるように疑問文の復習をしながら表現を広げていく。</p> <p>○2年生の文法が難しいと感じている生徒が多いので、Unitごとに文法を復習するワークシートをやる。</p> <p>○家庭学習を充実させるために、ノートの書き方やメモの取り方を指導していく。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第3学年	<p>○家庭学習につながるノート指導の充実を図り、教科書基本本文を活用した板書を行った。</p> <p>○ノートのページを学習の順に使用できていない生徒がいた。</p> <p>○定期テスト後のふりかえりを記入させることで、自身の苦手な箇所を意識し、復習する生徒が増えた。</p> <p>○教科書のインプット・アウトプットの流れに沿って、時間数を十分確保して指導することができた。</p>	<p>○習熟度別授業を実施している。</p> <p>○4月から実施している「Picture Describing」の帯活動を通し、積極的に英語での発話を楽しむ生徒が増えた。</p> <p>○前時を意識した帯活動により、既習事項をアウトプットする達成感を感じる場面を設定している。</p> <p>○帯活動のSpeaking活動では、自身の考えをまとめて話す指導を行っている。</p> <p>○基本語彙や連語の知識が定着していない生徒が多い。</p> <p>○3年生の教科書本文が長く、音読指導に時間をかけることができていない。</p> <p>○長文問題を読み、その内容について英文で答える問題に苦手意識を感じている生徒が多い。</p> <p>○毎時のふりかえりとまとめの時間を通じ、自身の成長と課題を各自が捉えている。</p>	<p>○習熟度別のクラスを発展1クラス、標準2クラスとしている。標準クラスの中レベル程度の生徒が、発展クラスの生徒に刺激を受ける時間を設けるため、単級の授業も効果的に行っていく。</p> <p>○帯活動のSpeaking活動では、質問への回答の仕方を今後も継続的に指導する。</p> <p>○Speakingの活動の内容をノートに書く活動を通し、英語の文章をまとめる力を養う。</p> <p>○1年生～2年生の範囲を対象とした小テストを行い、基本語彙や連語の定着を図る。</p> <p>○単語練習や語彙指導の方法を見直し、音読指導に時間を充てる。</p> <p>○帯活動で、長文問題演習を行う。</p> <p>○ふりかえりを通じて把握した自身の課題解決につなげるために、様々な学習学習方法について例示する。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>

三鷹市立第 中学校 令和4年度【道徳】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○生徒が、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるような授業づくりを行うことができた。</p> <p>○問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導を行うことができた。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を実施することができた。</p>	<p>【現状】 ・道徳教育の目標に基づいて、内容項目をバランスよく年間指導計画の中に入れ、おおそ計画的に学習を行うことができています。 ・ローテーションを取り入れて実施しており、各教員が担当の課題について創意工夫し、現状に合った指導を行っている。</p> <p>【課題】 ・物事を、より多面的・多角的に考えられるような発問の提示。 ・生徒が飽きないように、授業がパターン化しないような工夫。 ・授業者同士で、授業の振り返りや情報共有をする機会の設定。</p>	<p>◎それぞれの教師の良さを生かし、問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導を行う。</p> <p>○生徒が、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことを通して、ねらいとする道徳的価値を理解できるように授業を工夫する。</p> <p>○生徒一人一人との関係性を構築することで生徒の実態を理解し、教師一人一人が生徒の道徳性を養う意識をもつ。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して授業を計画し、実施する。</p>
第2学年	<p>○教材について学年の教員間で情報共有は行っているが、学級によって取り組み方に差ができる場合がある。</p> <p>○一つの題材について用意した電子教材を学年間で共有し活用することができた。</p> <p>◎話し合い活動を通じて、他者の意見を聞いたり考えを深めたりする機会を多く設けている。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用して系統的な指導を行っている。</p>	<p>【現状】 ・年間指導計画に基づき、生徒の実態や学校行事の時期に合わせてより適した指導順序に適宜入れ替えながら行っている。</p> <p>・教材については各学級の現状や課題に応じて細かい発問やグループ学習の仕方を変えている。</p> <p>・互いを思いやりながら活発に話し合おうとする班や学級の雰囲気づくりができています。</p> <p>【課題】 ・それぞれの意見を班の意見としてまとめたり、考えを深めたりすることなど、話し合い活動を更に充実させる必要がある。 ・学習内容をより自分事として捉えられるような学習の動機付けの工夫。</p>	<p>○授業者同士ですべての題材について情報共有をし、引き続き教員の授業力・指導力向上に努める。</p> <p>○各学級の現状や課題に応じて細かい発問やグループワークの方法を変える際、その方法をより密に情報共有することで似た傾向の学級の方法を取り入れるなど教員一人ひとりの授業力の向上に生かす。</p> <p>◎グループワークの最適な方法を模索し共有して、他者の意見・価値観に触れる機会を多く作る。生徒自身が話し合いの意義を感じることができるよう、発問の種類・内容を十分に検討する。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>
第3学年	<p>○教材に対して、学年職員が、共通の認識をもって取り組むことができるとなっている。</p> <p>○生徒の状況を把握しながら、学校・学年の行事にそって、教材を選択している。</p> <p>○学級の状況によって、発問に工夫がみられるようになってきた。</p>	<p>【現状】 ○教材を読み込む時間の確保が十分でない。 ○広い視野から多面的・多角的に考えられる発問や主題に迫る発問に工夫が必要である。 ○教師側の言葉が多く、生徒の発言が少ない学級がある。</p> <p>【課題】 ○生徒の発言を引き出す発問の工夫や、授業展開を考える必要がある。 ○授業者が授業のねらいを明確にするとともに、生徒自身に課題を設定させ、自力で課題を追究したり、追究したことを対話し、考えをまとめ発表したりするなどの学習活動を充実させる。 ○道徳科における評価を適切に行えるように、個人内評価としての見取りができるように工夫する。</p>	<p>○生徒同士、生徒と教師との「議論」のなかで人間の真実やよりよく生きる意味について考えを深めることができるよう授業全体の展開を構想する。</p> <p>◎問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導を行う手立てとして、少人数グループなど話し合いの場を多く設ける。</p> <p>○教材の吟味や、新教材の発掘、タブレットの活用を積極的に取り入れ、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させる指導を工夫する。</p> <p>○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。</p>